

逗子×東大 未来ビーチクリーンラボ ～つぎにつなげるみんなの海岸～

逗子海岸において、30年以上ビーチクリーンの取り組みが続いている逗子市。科学的知見を地域と接続することで、海洋ごみ削減に向けた具体的なアクションの推進を目指す東京大学生産技術研究所 DLX Design Labではこれまでマイクロプラスチック、海洋ごみをテーマに逗子市内で研究活動を行ってきました。そのような状況の中、令和4年度からより一層のクリーンなビーチの推進を目指す逗子市と共同でビーチクリーンをテーマに市民参加型の研究活動を行うこととしました。2022年6月から東京大学が開始した逗子×東大 未来ビーチクリーンラボプロジェクトでは、ステークホルダー横断型のワークショップを重ね、逗子ビーチクリーンにおけるガイドラインを作成しました。ガイドラインを通じて、ビーチクリーンの輪が広がっていくことを願っています。

取り組み1：ビーチクリーンラボを通じて見えた課題とデザイン機会

ワークショップで出てきたアウトプットや、ビーチクリーンの現場を体験する中で、いくつかの課題とデザイン改善できる機会が見えてきました。



ワークショップ (講演/対話/アイデア検討)

講演や対話を通じてアイデアを考えてきました。

実施日：2022年6月2日,9月16日,10月22日,12月10日

課題

ビーチクリーンのやり方が分からない

デザイン機会

配布可能な
ビーチクリーン
のチラシのデザイン



ビーチクリーン体験

実際に逗子海岸でビーチクリーンを行いました。

実施日：2022年9月16日

ごみ拾いのルールが不明瞭

分別のチェックが困難

ビーチクリーンの
ガイドラインデザイン



プロトタイピング

ワークショップの中で素早くプロトタイプを制作し、アイデアの議論をしてきました。

細かいごみを拾いにくい
ビーチクリーンツール

腰を痛めやすい
ビーチクリーンツール

ビーチクリーンツールの
デザイン

分別ルールとごみ箱表記が
統一されていない

ごみ箱のデザイン

取り組み2：課題解決のためのツール制作

ワークショップやビーチクリーン体験、プロトタイピング作成を通じて様々なアウトプットが生まれました。

1. ガイドラインデザイン



ビーチクリーンのやり方が一目でわかるガイドラインをデザインしました。

2. 理想の風景



ワークショップ参加者が願う理想の逗子海岸を描写しました。

3. ビーチクリーンツール



ビーチクリーンの新たな体験を作るツールをプロトタイプしました。

4. ごみ箱のデザイン



3Dグラフィックでゴミ箱をプロトタイプしました。